

YAGI REPORT

人と社会を結び続ける、ヤギへ。

私たちは、これからの社会をどう捉えていくべきか。価値観が大きくシフトした今、「繊維」と共に歩んできた私たちもまた、イノベーションが求められています。持続可能な世の中のために、私たちができることを一歩一歩。ともに創造し、調えあい、次の世界を形づくる。爽りある社会の実現を目指します。

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当連結会計年度における我が国経済は、度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出により、企業活動や個人消費が左右され、依然として厳しい状況が続きました。年明けからの新種株流行に加え、世界的な資源や資材の価格高騰、供給不足も常態化しており、今後の経済の見通しは極めて不透明なものとなっております。このような状況の下、当社グループは3か年の中期経営計画「MAKE A DREAM, I + ∞」の2年目にあたり、様々な施策を推進してまいりましたが、新型コロナウイルスの影響が長期化したことによる市況の停滞感やコスト高を払拭することはできず、当連結会計年度の経営成績につきましては、減収減益となりました。この結果を真摯に受け止める一方で、このように社会や経済環境が大きく変わり、社会との共生や共通価値の創造(CSV)などの重要度が高まる中、新しいビジョンで当社のあるべき姿や未来に向けてのイメージを社会に向けて共有していきたい、という考えから、この度「VISION」を策定いたしました。



代表取締役社長執行役員 八木隆夫

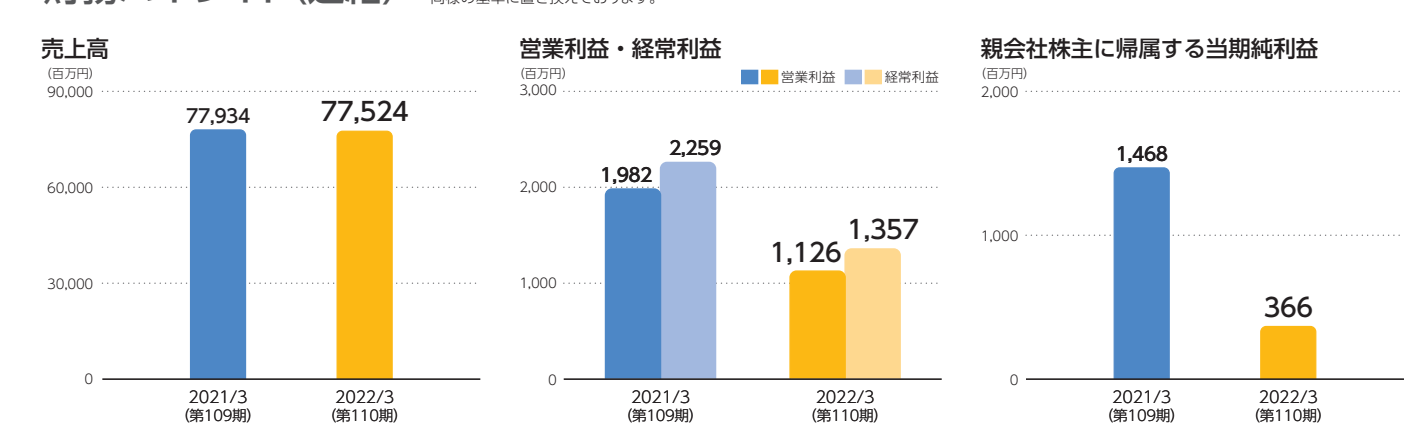
ヤギグループは人・地域・国を結びながら、マテリアルからアパレル、ブランド・ライフスタイルに至る繊維の可能性をイノベーションによって引き出していくお客様の声に耳を傾け、社会と共有できる価値を見出すことにより人々の豊かで快適な生活に貢献し、社会とヤギグループの持続的成長を結実させていく。それを実現させるために仲間同士がたたえ合い、健康でイキイキと働く環境を構築する。

私達、社員全員が自分の言葉でビジョンを語れるように、これから様々な形で浸透させていき、当社が1893年(明治26年)の創業以来築き上げてきた信用と実績をさらに高めていくために、企業価値の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2022年6月

財務ハイライト(連結)

*「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、決算短信では対前期増減率は記載しておりませんが、当資料では比較可能なように、前期の数値を同様の基準に置き換えております。



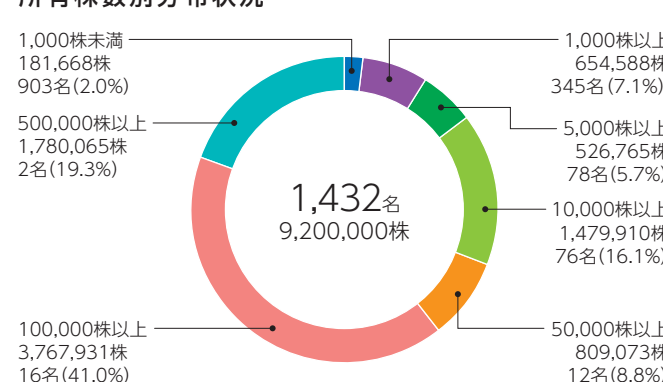
株式の情報 (2022年3月31日現在)

発行可能株式総数 45,568,000株
発行済株式の総数 9,200,000株
株主数 1,432名
大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
ヤギ共栄会	906 (千株)	10.88 (%)
ビービーエイチ フィデリティ ビューリタン フィデリティ シリーズ インタリッジ オポチュニティズ ファンド	450	5.40
株式会社みずほ銀行	410	4.93
株式会社三井住友銀行	380	4.56
立花証券株式会社	348	4.18
株式会社三菱UFJ銀行	305	3.66
ヤギ従業員持株会	267	3.22
第一生命保険株式会社	250	3.00
NOMURA CUSTODY NOMINEES LTD - TK1 LIMITED	249	3.00
クロスプラス株式会社	229	2.75

(注)持株比率は自己株式(873,865株)を控除して計算しております。

所有株数別分布状況



会社概要 (2022年6月29日現在)

会社の概要

社名 株式会社 ヤギ
英文社名 YAGI & CO.,LTD.
創業 1893年(明治26年)10月16日
設立 1918年(大正7年)4月28日
資本金 1,088,000,000円
主な事業内容 綿化繊維、合繊糸、綿化繊維、合繊繊維、ニット生地及び衣料品等の各種繊維二次製品の国内販売ならびに輸出入
主要な事業所 (国内) 大阪本社 大阪市中央区久太郎町二丁目2番8号
東京本社 東京都中央区日本橋小網町18番15号
支店 福井(福井市)
出張所 名古屋(名古屋市)
営業所 和歌山(和歌山市)
(海外) 駐在員事務所 上海(中国) ホーチミン(ベトナム) ハノイ(ベトナム) ダッカ(バングラデシュ)

役員一覧 (2022年6月29日現在)

代表取締役社長執行役員 八木 隆夫
取締役常務執行役員 山岡 一朗
取締役上席執行役員 濱田 哲也
取締役上席執行役員 八木 靖之
取締役(常勤監査等委員) 三浦 明石
取締役(監査等委員) 池田 佳史
取締役(監査等委員) 塩田 修
取締役(監査等委員) 熊谷 弘

(注)取締役池田佳史、塩田修及び熊谷弘は、社外取締役であります。

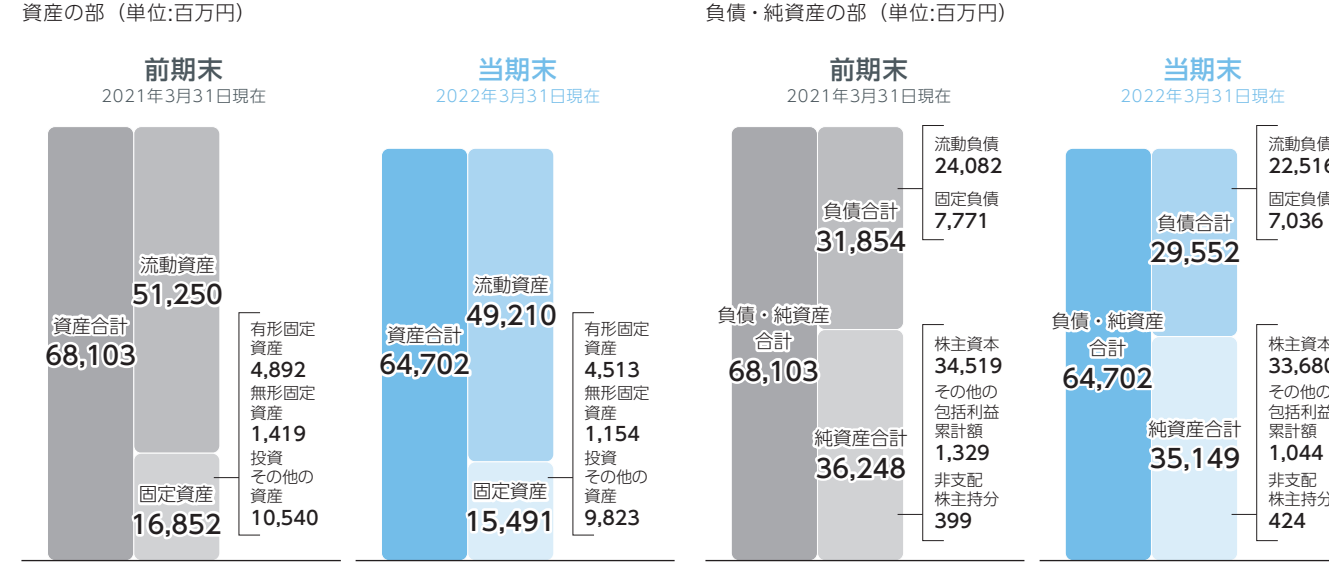
株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会の基準日 3月31日
剰余金の配当の基準日 期末配当 3月31日 中間配当を行うときは9月30日
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告の方法 電子公告とし、当社ウェブサイトに掲載いたします。なお、電子公告によることのできない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
ウェブサイト <https://www.yaginet.co.jp/ir/announce.html>

【住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について】
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
【未払配当金の支払いについて】
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

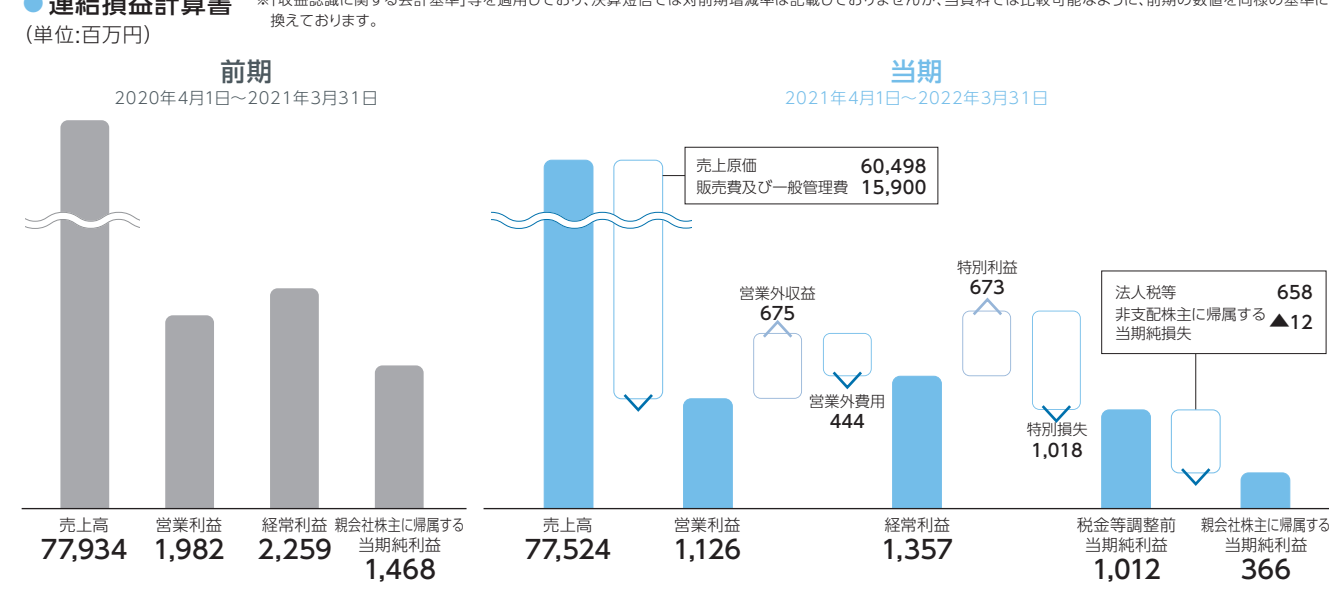
連結財務データ

●連結貸借対照表

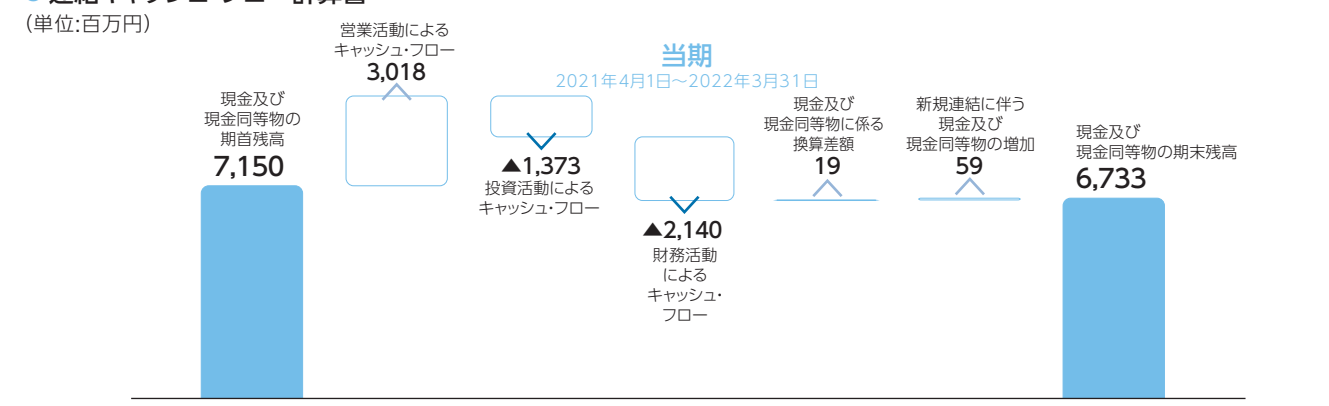


●連結損益計算書

*「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、決算短信では対前期増減率は記載しておりませんが、当資料では比較可能なように、前期の数値を同様の基準に置き換えております。



●連結キャッシュ・フロー計算書

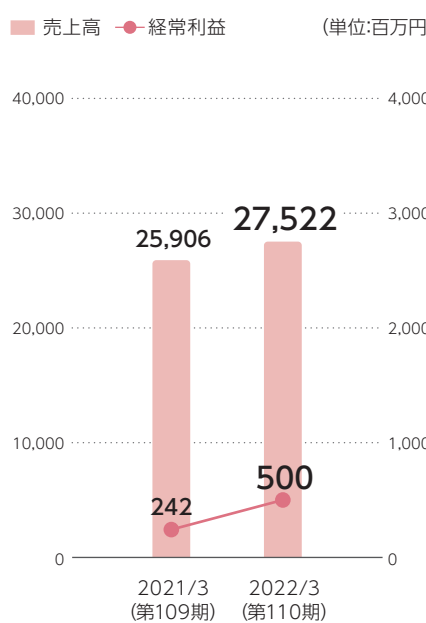


セグメント別の概況

*「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、決算短信では対前期増減率は記載しておりませんが、当資料では比較可能なように、前期の数値を同様の基準に置き換えております。



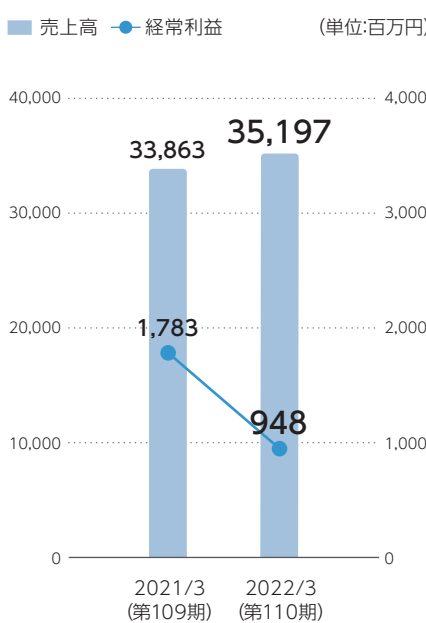
合成繊維販売は、他社との差別化を図った自社加工糸を中心に、ユーザーとの取り組みが深耕し堅調に推移しました。またインテリア向け原料、高付加価値原料販売も比較的安定した動きとなりました。一方で、天然繊維販売については、綿糸価格の高騰が継続し、各産地で商況が鈍化傾向になりましたが、オーガニック糸の取り扱い量が増加し安定した動きを見せました。テキスタイル販売につきましては、年度後半以降は、原料高に加え原油高により輸送経費が上昇するだけでなく委託加工先からの値上げ圧力も加わり苦戦を強いられました。繁忙期には着心地重視のカットソー素材等が復調傾向となりました。



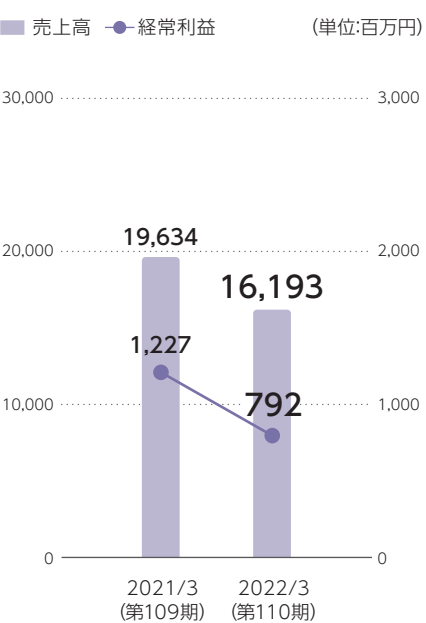
(※売上高構成比はこの他に、不動産事業0.9%があります。)



度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出により、消費者の動向は左右され全体としては店頭での売れ行きは低調となり苦戦を強いられました。そのような中でも集ごもり需要を取り込んだ通販向け商材、量販向け商材では主要販売先との取り組み深耕もあり健闘しました。しかしながら、特に原料価格の上昇、燃料費の高騰と世界的なコンテナ不足に伴う物流経費の上昇、円安基調といった生産面における「三重苦」のコスト高に対し、販売価格への転嫁が難しい状況下で、著しく利益が圧迫され苦戦を強いられました。



百貨店やセレクトショップを中心にブランド品を扱う事業では、一部冬物重衣料で年度終盤の急激な冷え込みもあり好調な動きとなりましたが、年度を通し長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、苦戦を強いられました。また、生活資材や家庭用抗菌ウイルス商材を扱うライフスタイル事業ではコロナ関連商材において、ナノファイバーを使用した不織布の高性能マスクが市場で一定の評価を受け、比較的堅調に推移しましたが、一部の商材に関しては需要が大きく低下し苦戦を強いられました。



配当につきましては、長期的な視野で安定した利益還元と、経営基盤強化のための内部留保充実をバランスよく行っていくことを基本方針としております。

当基本方針に基づき、当期末配当金は1株につき40円とさせていただきます。また、次期の期末配当金につきましては、1株につき48円を予定しております。

TOPICS

中期経営計画「MAKE A DREAM, 1+∞」進行中

当社グループは、2023年3月期を最終年度とする中期経営計画を推し進めています。スローガンである「MAKE A DREAM, 1+∞」には、「人と人を繋いで夢を追う」意味を込めています。中期経営計画の2年目となった第110期では、「経営体制の高度化」、「事業ポートフォリオの最適化」、「次世代事業の創出」、「サステナビリティの着実な実行」の4つの重要施策に引き続き重点的に取り組みました。

「Fably」が海外対応サービスを開始

「Fably(ファブリー)」は、「生地に関するプロツール」をコンセプトに、当社の生地や全国各地の様々なサプライヤーによる生地を取り扱うテキスタイルECサイトです。サイトのリニューアルを重ね、サプライヤーは30社以上に増加。テキスタイルのオープンプラットフォームとして成長しています。本年3月からは海外対応機能も追加し、海外からの受注・発送にも対応が可能となりました。今後も機能の充実や、サイトとSNSを活用した生地に関する情報発信などにも力を入れ、業界全体の活性化に貢献してまいります。

Fably Webサイト <https://www.fably.jp/>

「SDGs方針策定プロジェクト」を開始



全社のSDGs方針となるミッションステートメントの策定を目指し、社内で、約7か月間に渡るSDGs MS策定プロジェクトを実施いたしました。社内公募により集まった、部署、年次を問わない多種多様なメンバーが各チームに分かれて定期的にディスカッションを重ね、最終的にはそれぞれのチームで考えたミッションステートメントの発表会を行いました。プロジェクト全体を通して、参加したメンバーはSDGsの取り組みに対して、なぜ、どのように、何をすべきなのかを深掘り、自分事化して考える機会となりました。現在は、経営層向けのSDGsワークショップも開始しており、今後はこのSDGsプロジェクトで社員が発表した内容も取り入れながら、全社としての具体的なSDGs方針を策定していく予定です。

「ファッションワールド 東京 2022春」に出展

日本最大規模のファッション展である「ファッションワールド 東京 2022春」に、当社の原料、生地を扱う複数の部署で合同出展いたしました。新素材としては、環境配慮型の合繊素材ブランドとして新たに立ち上げた「natureel(ナチュレール)」から、工場内の糸くずから作る再生ナイロン糸や、廃ペットボトルを活用した再生ポリエステル糸を展開。また、再生ポリエステルを活用したウール調の素材「Belmott plus(ベルモット・プラス)」も新素材として展示いたしました。他にも、PBPオーガニックコットンを使用した生地や、ナノファイバーブランド「NANOXERA(ナノクセラ)」による生分解性の素材など、環境配慮型の原料・生地・製品や、テキスタイルECサイト「Fably(ファブリー)」の紹介など、幅広い内容で展示を行いました。また、ほとんどの展示用什器は再利用できるものを使用し、ブース全体で環境負荷を少なく作り上げることにもこだわりました。



「リサイカラー」の取り組み

当社の子会社、ヤギ香港では、再生綿糸「リサイカラー」を2007年から展開しています。アパレル製品の生産過程で発生した裁断くずを回収し、色ごとに分類、反毛を経て紡績糸として再生する取り組みです。様々な色のコットン生地を再生することができる上、染色工程を必要としないので、水の使用だけでなく温室効果ガスの削減にもつながっています。また、この水やエネルギーの使用量を数値として表し、環境負荷の低減にどの程度貢献できているのかも可視化しています。近年では、生地・製品事業の拡大に力を入れており、原料だけでなく、生地、そして製品までの一貫ビジネスの構築を目指しています。



YAGIthical・サステナビリティ取り組み

当社グループは、持続可能な社会の発展を目指し、エシカルへの取り組みを総称して「YAGIthical(ヤギシカル)」と名付け、国連の提唱する持続可能な開発目標(SDGs)と関連付け、SDGsの達成に貢献するため、取り組んでいます。今期の代表的なヤギシカルの取り組みをご紹介します。



「KanFA SDGs AWARD 2021」にてサステナブル・アクション賞を受賞



当社が会員企業として参加しているKanFA(協同組合 関西ファッション連合)による、「KanFA SDGs AWARD 2021」にて、当社がサステナブル・アクション賞を受賞いたしました。経産省をはじめとする6名の選考委員により、約600社の会員企業各社のSDGs・サステナビリティに関する取り組みについて厳正な審査が行われ、当社がサステナブル・アクション賞の受賞企業の1社に選ばれました。このような名誉ある賞を授与したことを励みに、より一層社内外でサステナビリティに対する取り組みを積極的に推進していきます。

KanFA Webサイト <https://www.kanfa720.com/>

「NPO法人DEAR MEとの協働が進み、初のPOP-UP STOREを開催

NPO法人DEAR MEと協働し、未来の消費者世代であるZ世代とのシナジーを生かした社会課題解決を目指す「Timeless Worth Project」の取り組みが進んでいます。本プロジェクトの一環として、昨年6月には、当社グループ会社のツバメタオル(株)での工場見学を開催いたしました。この工場見学を機に、規格外品タオルの活用法が課題となっていることを知り、タオルを有効活用するための企画を立案。その企画を通して、規格外品タオルをアップサイクルしたミニタオルセットを製作しました。本年3月には、新宿マルイ本館にてYAGIthicalとして初となるPOP-UP STOREを開催。このアップサイクルミニタオルをはじめ、当社の環境配慮型商品の紹介・販売を通して持続可能な消費行動を消費者の方々に向けて提案する機会となりました。

